

大西茂氏 博士論文審査要旨

I. 論文の主題と構成

大西茂氏が提出した博士論文「エシカル消費の普及促進に関する実証研究」（以下「本論文」）は、以下の5章から構成されている。

第1章：はじめに

第2章：地場産農産物に対する消費者の選好

第3章：「エシカル消費」としての地場産農産物に対する消費者選好

第4章：エシカル消費の経験がその後の消費行動に及ぼす影響の因果推論

第5章：結論

II. 論文の概要

本論文は序章の第1章、個別の実証分析の第2-4章、結論の第5章となっている。第2章および第3章は、それぞれ野洲市と近畿3府県におけるオリジナルの調査データに基いたエシカル消費に関する実証分析であり、ともに申請者が筆頭著者の査読付論文として国内学術誌に刊行されている。第5章は消費者庁より提供を受けたエシカル消費に関する全国データを基にした因果推論であり、その内容を英語化したものが国際学術誌による査読を受けている。これら3章は、それぞれが独立した実証研究でありながら、エシカル消費の普及促進に向けた一貫した内容であると判断できる。序章、結論も綿密に書き上げられており、これら5章を全体として見ると、提出された論文が「質量とも研究書として刊行できる内容」であるものと認められる。

III. 論文の評価

論文審査委員会では、本論文の評価について所定の6項目に従い以下の通り検討をおこなった。

(1) 論文テーマ

エシカル消費に対する注目は近年急速に高まっており、その普及促進のためにデータに基づく分析をした研究は国内では非常に少ない。エシカル消費は一定のコストを伴う消費であり、理念や教育効果による普及には限度がある。そのため、経済学的な視点から多面的に分析することが必要であり、これは学術・実務の両面で重要な問いである。本論文はこうした背景を踏まえて個別のテーマが設定されており、研究の社会的意義も明確に意識されていることから、評価を「優」とした。

(2) 論文構成

本論文ではエシカル消費に対する消費者の選好を、特定の自治体および広域的な視点から個別に分析するとともに、購買行動の規定要因（第2章）、支払意思額の推定（第3章）、エシカル消費の因果推定（第4章）と、多面的かつ詳細に分析している。全体のテーマに沿って各章において個別の問題・仮説が適切に設定されており、それらを受けて一貫した論述が展開され、学術的にも実務的にも明確な形で結論が導出されていると認められる。そのため本項目の評価を「優」とした。

(3) 研究方法

本論文の第2章から第4章では、エシカル消費の普及促進のための規定要因およびエシカル農産物に対する消費者の選好について、それぞれの研究仮説に応じた適切な分析およびデータ収集方法が選択されていると認められる。特に第3、4章で筆者が実施・収集したアンケートデータは独自性が高く学術・実務の両面で貴重なものであり、本論文の独自性を高める大きな要因にもなっている。分析結果の解釈についても妥当で学術的に高い水準と認められることから、評価を「優」とした。

(4) 先行研究や関連研究に関する理解：それらが幅広く十分に渉猟され、的確に理解されているか

本論文ではエシカル消費について経済学的な視点だけでなく学際的な視点により、国内外の事例について詳しく紹介するとともに、関連する国内外の先行研究についても丹念にレビューされている。その上で本論文の位置付けを示すとともに、新たな知見を創出する学術的な意義についても触れており、読者が重要性を的確に理解できるよう工夫されている。そのため本項目の評価を「優」とした。

(5) オリジナリティ

本論文はエシカル消費の普及促進について、アンケートに基づいて収集したデータを計量経済学モデルにより分析し、結果の考察から具体的な政策提言にまで踏み込んだ内容である。また上述の通り、本論文は独自性の高いデータに基づく定量分析であり、オリジナリティの高い内容と認められる。学会報告などでも高い評価を受けており、学術・実務に対する貢献が十分に期待されることから評価を「優」とした。

(6) 体裁

引用等は適切に処理され、学術論文としての体裁は概ね整っているものの、一部箇所において体裁の非整合性や句読点の表記が異なっているなど、修正すべき点が認められることから、本項目の評価は「良」とした。

IV. 結論

以上のように、本論文の評価は6項目中5項目で「優」であり、「良」の一項目も体裁を修正することで「優」の水準に達することが見込まれている。全体として学術的に十分な水準に達しており、社会への実務的な貢献も大いに期待される結果と認められる。そのため、審査委員全員一致で本論文を「合格」とすることとした。